

『高田 弘先生の米寿を祝う会』が2012年10月14日開催されました

光陰矢のごとしと申しますが、今年（2012年）は土木工学科の創設から43年経過し、第1回生は退職を迎える時期になりました。この間、土木工学科、土木工学科と建設工学科の2学科、建設系学科、今の都市工学科と改名し、多くの技術者を輩出してきました。土木工学科を創設し、学科の発展にご尽力いただいた先生方（最後の古賀勝喜先生が今年3月退職）は全員退職されました。

高田先生は佐賀大学長（2期6年）、アバンセの館長（2年）、西九州大学長（2期8年）を歴任され、平成19年3月に現役を退かれましたが、矍鑠とされており、お元気なので米寿はまだ先の話だと思っておりました。しかし、念のために生年月日を調べてみると、今年の10月14日で88歳（米寿）を迎えられることがわかりました。早速、米寿のお祝いのお話を伺いましたところ、はじめは固辞されましたが、ようやく了承をしていただきました。たまたま14日が日曜日に当たるので、誕生日に合わせて米寿を祝う会を催すことになりました。

土木工学科創設当時の先生方や高田研究室（一部高田・清田研究室）および第1～3回生を中心に案内状を郵送しましたところ、多数の方から主席の通知をいただきました。途中で急用が入りやむなく出席できなくなった方も数名おられ、最終的な出席者は先生ご夫妻を含めて47人になりました。ご多忙中にもかかわらず、一期生の石井（中村）・鈴木（中野）先輩には東京と千葉から、2期生の荒川・岡田・梅崎君には滋賀、大阪および大分から、土井君には鳥取から駆けつけていただきました。衷心よりお礼申し上げます。

11時30分、プロジェクトXのテーマソング（地上の星）で高田先生ご夫妻をお迎えし、『高田 弘先生の米寿を祝う会』が不肖の弟子の清田の司会によってスタートしました。

高田研究室の第1期卒業の光武先輩に発起人の挨拶、つづいて高田先生と同じ構造工学講座に所



写真1 謝辞を述べられる高田ご夫妻



写真2 参加者された先生及び卒業生



写真3 卒業生の話に耳を傾けられるご夫妻

属され、高田学長時代に副学長として補佐された荒牧先生に出席者を代表してご挨拶を頂きました。その後、美空ひばりの津軽の故郷の歌に合わせて、司会者から高田先生のプロフィールが紹介されました。熊本中学校5年（17歳）の時、若き日の抒情歌（青春日記）を執筆されています。これが17歳の文章かと驚くとともに、高田先生の文学的な才能を含めたスケールの大きさを改めて認識させられました。

花束贈呈および記念品の贈呈の後、高田先生から謝辞が述べられ、最近の世の中の動きや政治情勢を踏まえると、今は極めて危険な状況にあることを憂える素晴らしいスピーチでした。つぎに、奥様もユーモアのあるとても楽しいお話をされました。

いよいよ理工学部長や低平地研究センター長として土木工学科にご貢献いただいた三浦先生の乾杯の発声で宴会（会食）が始まりました。しばらく会食・懇談したあと、荒牧先生の司会のもと入学年度毎に当時の高田先生の印象や近況報告などについて話してもらいました。荒牧先生の巧みな司会により会は盛り上がり予定の時間を40分オーバーしてしまいました。このまま継続したかったのですが、後藤先生に気合の入った三本締めで『高田 弘先生の米寿を祝う会』を見事に締めいただきました。

高田先生にも喜んでいただけたと思いますし、卒業生も久しぶりに旧交を温めることができました。

（文責 2回生 清田勝）